

習い事の理由

一宮東部小・4 松井 夢蘭

毎週、わたしはいろいろな習い事に通っています。火曜日は、ピアノを習いに近所のピアノ教室にお姉さんと歩いて行きます。水曜日は、英語を習いに遠くの英語教室まで送ってもらいます。土曜日の午前中は、小学校の体育館でバレーボールの教室に参加し、ご飯を食べた後すぐに、バレーボールのクラブチームの練習に行きます。

どの習い事も、お姉さんや友達がやっているから、わたしもいつの間にか習っていて、それが当たり前になっていました。ピアノ教室は、先生に楽しむの読み方やえんそうの仕方を教えてもらい、ピアノをひいて練習をくり返します。一回のレッスンだけでは、全然ひけるようにならないので、先生に教えてもらったことを家でも練習し、次のレッスンでは、もっとひけるようにがんばっています。

冬には、発表会があり、たくさん練習しないといけません。たくさんの方の前で、えんそうするし、間ちがえたらはずかしいと思うので、とてもきんちょうします。それでも、えんそうが終わった後は、たくさんの方にはく手をしてもらい、安心することができ、うれしい気持ちになるので、がんばってよかったと思うことができます。

英語教室は、最近始めたばかりで、先生と友達と楽しくじゅ業を

しています。習った英語を家で練習して、わかるようになると、とても楽しいです。ただ、時間がおそいので、帰ったらすぐにご飯を食べてねるじゅんびをしなければいけないので、大変です。

バレーボールの教室は、き本を練習するところです。走ったり、ボールを使ったりして、遊びながら楽しくバレーボールの練習をします。コーチの先生も笑顔で楽しくバレーボールを教えてください。楽しく練習することができて、もつとうまくなりたいという気持ちになります。

バレーボールのクラブチームは、真けんにバレーボールを習うところです。コーチは、同じ先生ですが、教室の時とはちがい、きびしく教えてください。一番おこられるのは、声を出さなかった時や声が小さかった時です。

なぜ声を出さないといけないのか考えてみました。バレーボールは六人のチームで行うスポーツです。一人ではできません。声を出さないと、試合中にだれもボールを取りに行かなかつたり、チームメイトとぶつかつたりします。それに、ぶつかるどけがをしてしまうことがあります。

また、サーブが決まった時にチームメイトから「ナイス」と声をかけられると、とてもうれしい気持ちになります。

声を出すことは試合に勝つことだけではなく、けがをしないためにも大切なことだと思いました。

習い事をやっている時、平日や土日がいそがしくなり、好きなゲームが十分にはできません。たまに習いごとに行きたくない時もあります。ぐずぐずしていると、お父さん、お母さんは「やりたくないよ、いつでもやめていいよ。」と言います。お父さんやお母さん

も大変なことも多いのに、なぜ習い事をしているのか考えるために、お父さんに聞いてみました。

お父さんは、「習い事は体をきたえたり、じゅ業で習わないことを勉強できたり、いろいろな人との出会いもあって、しよう来きつと役に立つから、自分の好きなことをたくさんやっていくといい。」と言っていました。

お父さん、お母さんがわたしのために送りむかえをしてくれたり、家で練習するのを手伝ってくれたり、わたしのためにたくさん時間を使ってくれていることもわかりました。家族が協力してくれるのは、当たり前だと思っていましたが、そうではありません。家族の協力があるからこそ、習い事ができていることがわかりました。こうして習い事のことを考えてみると、やらされているのではなく、自分から進んでやるのが大切だと感じました。

これからは、一つ一つの習いごとを一生けん命がんばって、いろいろなけい験をしたいと思います。